

■**貝原益軒** 儒学者、博物学者。遅い登場ながら、養生に努めて長寿を保ち、多分野にわたって膨大な著作。晩年に“益軒十訓”。

かいばらえきけん

寛永禁書令・1630＝ 福岡城内東邸で、岡山県吉備津神社の神官を先祖とし、祖父の代より黒田氏に仕える医者黒田寛斎の五男に生まれる。名は篤信。

徳川秀忠没・1632＝ 2歳：

参勤交代始・1635＝ 5歳：母を失う。

東照宮完成・1636＝ 6歳：童子類を読みはじめる。走ったり跳んだりすることが得意でなく、友人と遊ぶことを好まない。

島原の乱始・1637＝ 7歳：父にしたがって穂波郡八木山の知行所に移る。

島原の乱終・1638＝ 8歳：島原の乱に父が従軍。次兄存斎から漢文の手ほどきをうけ、この頃から**損軒**と号する。

鎖国令V・1639＝ **9歳**：

寛永飢饉始・1640＝10歳：福岡の新大工町に移る。

家光鎖国完成1641＝11歳：父にしたがって恰土郡井原に移る。

寛永飢饉終・1643＝13歳：**次兄存斎から四書を学び、父の影響で医学や薬学の本にも親しみ始め、難解な和算書「塵劫記」も解くほどの神童ぶりを発揮、遊びにも興味を持って、猿楽や俗語を吸収するなどして、博覧強記になって行く。**

・・・・・・1646＝16歳：荒津山の下に移る。はじめて「小学」を読む。

・・・・・・1647＝17歳：3年前より江戸に留まっていた父帰る。

市中諸法度・1648＝**18歳**：**黒田藩に召抱えられ、2代藩主忠之に近侍。忠之に従ってはじめて江戸に行き、**

慶安御触書・1649＝19歳：**帰藩後に元服するが、短気な性格の忠之から謹言をうけて、15日間閉門、**

御蔭参流行・1650＝20歳：**さらに忠之の怒りに触れて解任されてしまう。**

徳川家光没・1651＝21歳：

父は藩医のまま、生活には困らず、**江戸に出て林家の鷲峰を訪問するなど、学識を深めるうち、**

・・・・・・1655＝25歳：長崎に遊ぶ。医老となる決心をし、江戸に行く。川崎の宿で剃髪し柔斎と称した。

・・・・・・1656＝26歳：**3代藩主光之の命で再出仕。**

明暦の大火・1657＝**27歳**：**京都に遊学、山崎闇斎・木下順庵・松永尺五らを訪ねて教を請い、**

人身売買禁止1658＝28歳：木下順庵の講義に列する。

とくに、**医師向井元升と農学者宮崎安貞と出会って、本草学や風土への見識を高め、一段と飛躍。**

松平信綱没・1662＝32歳：一時帰藩。30石に加禄される。また京都に帰る。

殉死の禁止・1663＝33歳：藩邸で、**朱子学のバイブル「近思録」を講義し、**

・・・・・・1664＝34歳：福岡に帰る。知行150石となる。また、江戸に行く。

諸宗寺院法度1665＝35歳：江戸を發し京都に滞在。父が福岡で死去。「易学提要」「読書順序」、**陸王学を批判する「学蔀通弁」を読んで**

朱子学へのめり込むが、「太極図説」を講義して疑念も抱き始める。以後、毎年のように著作。

酒井忠清大老1666＝**36歳**：福岡に帰る。江戸に行く。

入鉄砲出女令1667＝37歳：京都に向かう。春夏の間に淋疾・疝気・淡火(気管支炎)を病む。大和旅行。「正文編」。

足利学校再建1668＝38歳：江戸に行く。**「近思録備考」。**親子ほど年の離れた初(東軒夫人)との結婚にも大きな影響を受け、

ジャコブの乱 1669＝39歳：京都に向かう。福岡に帰り、荒津の東浜に邸宅を国主よりもらう。「願籠抄」「小学句読備考」。

世子黒田綱之に「論語」を講じ、**藩儒としての扱いを受けるようになり、**

・・・・・・1671＝41歳：京都に行く。福岡に帰る。**黒田家譜編集の命令をうけ、**

越後屋オープン 1673＝43歳：京都滞在1ヵ月。

・・・・・・1674＝44歳：藩主光之にしたがって江戸に行く。

談林派俳諧 1675＝**45歳**：この年、世子綱之は光之の命で突然塾生となり、弟が世子となる。幕府薬園の薬草を見学。福岡に帰る。

・・・・・・1676＝46歳：長崎に藩命で函書を買に行く。

・・・・・・1677＝47歳：命により、漂着朝鮮人と筆談。その後も機会を得て朝鮮人と筆談、朝鮮の学問と風習を知ろうとした。

藤十郎登場・1678＝48歳：***「黒田家譜」をつくり献上して、藩主光之より褒賞を受けると、**

越後騒動・1679＝49歳：「伊野太神宮縁起」「初学詩法」「増福院祭田記」。***「杖植紀行」以降、一気に多作となり、**

徳川綱吉将軍1680＝50歳：各地を旅行。「畿内吟行」「京畿紀行」「大和河内路記」。**「本草綱目録と和名」はじめ、本草学の本も多い。**

天下一禁止・1681＝51歳：飢饉、知行所の農民に銀171匁を分けあたえる。

好色一代男・1682＝52歳：「頭生轉要」。**徳川綱吉の将軍就任を祝賀するために福岡に來訪した朝鮮通信使と筆談。**

八百屋お七・1683＝53歳：前年に江戸に来ていたが、江戸を出て伊勢・大和をへて京都に入る。福岡に帰る。

堀田正俊暗殺1684＝**54歳**：幕府の命で黒田長政の戦功事歴の調査。「黒田公勲功記」「大宰府天満宮故実」「大学新疏」。

出世景清初演1685＝55歳：江戸を發し、日光・足利学校・から中仙道をへて、京都に入り、帰福。「西帰吟稿」。

・・・・・・1686＝56歳：**この年、長崎に來た明の朱竹蛇が、益軒の「近思録備考」を読み、好著とし自ら筆写して帰る。**

生類憐令始・1687＝57歳：「学則」「和字家訓」「吾婦路記」。

日本永代蔵・1688＝58歳：筑前風土記をつくる準備をはじめ。国内を巡遊。京都に行く。約1年滞在。米川玄察に筆を習う。

・・・・・・1689＝59歳：丹波・若狭・近江、河内和泉、紀伊などをめぐり、帰福。「平韻弁声」「番譜」「巖島図並記事」。

湯島聖堂・1690＝60歳：福岡・博多の諸寺をたずね赦実を問う。西方諸郡巡遊。「香椎宮紀事」「都郵行遊記」。

別子銅山始・1691＝61歳：京都に行き東近江に遊ぶ。福岡に帰る。「黒田家臣由來記」「筑前名寄」「江東紀行」「背振山記」。

奥の細道・1693＝**63歳**：「磯光天照宮縁起」「講説規戒」。

芭蕉+師宣没 1694＝64歳：京都に行く。「熊野路記」「豊国紀行」。

生類憐令頂点1695＝65歳：京都にあって公卿と交遊。帰福。辞職を願ったが許されず。次兄存斎が死去。

萩原勘定奉行1696＝66歳：知行300石となる。客を招いて祝宴数日。

吉保大老格・1698＝68歳：夫人・侍僕を伴って大阪・京都見物。有馬温泉に遊ぶ。

・・・・・・1699＝69歳：「和字解」「日本積名」「三礼口訣」。

・・・・・・1700＝70歳：**辞職を許される。**

松の廊下事件1701＝71歳：「近世武家編年略」「至要編」「宗像郡風土記」。

赤穂浪士討入1702＝**72歳**：末兄樂軒の病重く再三訪うが、死去。「音楽紀聞」。

赤穂浪士切腹1703＝73歳：国内巡遊。「点例」「和歌紀聞」「黒田忠之公譜」。**「筑前国統風土記」も完成。「五倫訓」「君子訓」以降、**

団十郎刺殺・1704＝74歳：夫人大病。「宗像三社縁起並附録」「菜譜」。

御蔭参流行・1705＝75歳：命により「三才図会」の修補。「古詩断句」「都事記」。

・・・・・・1706＝76歳：「三才図会」の修補おわって献上。著書「和漢吉諺」。

富士宝永噴火1707＝77歳：国内を巡遊し古廣をさぐる。先君光之、死去。

シヅメ子拘束・1708＝78歳：**「大和俗訓」。**

徳川綱吉没・1709＝79歳：「岐蘇路記」「篤信一世用財記」。**本草学の代表作「大和本草」には、猫の特長九条をあげている。**

・・・・・・1710＝80歳：**「楽訓」「和俗童子訓」。**

冥途の飛脚・1711＝**81歳**：「岡湊神社縁起」「有馬名所記」。「五常訓」「家道訓」。

乾山陶器店・1712＝82歳：「心画規範」「自娛集」。

和漢三才図会1713＝83歳：「諸州巡覽記」「日光名勝記」。***「養生訓」まで、「益軒十訓」を書き続けるも、妻が死去して、孤独になり、**

絵島事件・1714＝84歳：***身体不調で、客とも会わずに、「慎思録」を書き、朱子学に対する長年の疑念をぶつけた「大疑録」を完成、**

一旦回復するも、再発して、手足麻痺するなか、没した。

疋田啓佑「儒者」、中公シリーズ「日本の名著」、「人づくり風土記」(福岡)、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、

平凡社百科事典、「本朝医人伝」、山田風太郎「人間臨終図巻」、「目でみる日本人物百科」、日本の古典名著、